

令和7年度 第3回 北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会  
議事次第

日時：令和7年12月15日

18:30～20:00

場所：北川村民会館

大ホール

(オンライン併用)

1. 開会
2. 前回内容の確認について
3. 北川村の新しい学び舎の在り方について
4. その他進捗報告
5. 次回の検討委員会について

【配布資料】

- 資料1 第2回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会議事録  
資料2 北川村の新しい学び舎の在り方  
参考資料1 保育・教育施設の現況（図面）  
参考資料2 北川村保小中一体化施設整備基本計画 目次・論点  
参考資料3 北川村保小中一体化施設整備基本計画 検討スケジュール

## 【未定稿】

## 第2回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和7年11月25日(火)18:45~20:15
開催場所	北川小中学校 多目的ホール(オンライン併用)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 委員 岡宗委員、橋本委員長、山崎委員、土居委員、百々委員、井津(文)委員、稻毛委員、井津(信)委員、有光委員</li> <li>■ アドバイザー 長岡アドバイザー、岩城アドバイザー、野島アドバイザー</li> <li>■ GPMO 神原、成松、山内</li> <li>■ 事務局 濱渦教育次長、堂脇次長補佐、堅田次長補佐、植田主任主事</li> </ul>
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)開会</li> <li>(2)前回内容の確認について</li> <li>(3)北川村の保小中一体化の在り方について</li> <li>(4)その他進捗報告           <ul style="list-style-type: none"> <li>・村民向けワークショップ</li> </ul> </li> <li>(5)次回の検討委員会について</li> </ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事次第</li> <li>・資料1 第1回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会議事録</li> <li>・資料2 北川村の保小中一体化の在り方</li> <li>・参考資料1 保育・教育施設の現況(図面)</li> <li>・参考資料2 北川村保小中一体化施設整備基本計画 目次・論点</li> <li>・参考資料3 北川村保小中一体化施設整備基本計画 検討スケジュール</li> </ul>

議事経過	<p><u>(1)開会</u></p> <p>【事務局】</p> <p>議事次第に沿って会議を進行する旨説明。なお、熊瀬委員・田所委員は欠席。</p>
------	---

議事経過	<p><u>(2)前回内容の確認について</u></p> <p>【事務局】</p> <p>【資料1】に基づき説明。</p> <p>委員に対し自身の発言内容の確認と追記・修正があれば申し出るよう依頼。 →特に異論がなかったため、【資料1】を概要としてホームページに掲載する旨報告。</p>
------	---

議事経過	<p><u>(3)北川村の保小中一体化の在り方について</u></p> <p>【事務局】</p> <p>【資料2】に基づき説明後、下記テーマについてディスカッションを実施。</p> <p>テーマ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北川村の子どもたちの良いところはどんなところか。</li> <li>・子どもたちの良いところを伸ばすためにはどんな課題があるか。</li> </ul> <p>テーマ②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな子育て・教育環境があれば子どもたちを通わせたいか。</li> </ul>
------	--

## 【未定稿】

- ・「みんなが集い、学ぶ」ためにはどんな場所があるとよいか。
- ・これからの環境を「みんなでつくる」ためにはどんな取組ができるとよいか。

### 【岡宗委員】

北川村の子どもたちは少人数ならではの異年齢交流が日常的で、上級生への憧れや下級生のお世話をする関わりが自然とあって、社会性が育っているのではないか。

一方で、何か熱中したくても、習い事や学習できる環境が十分でない点が課題。

子どもたちが「学校が楽しい」「学校に行きたい」と思える環境づくりが必要。

### 【橋本委員長】

転校生を自然に受け入れる力があり、スムーズに関係性を築く力が育っている。

子どもの数は少ないが、少ないからこそできることをやるとよい。そういう意味で、保小中一体化を進めているが、今は行事が多く、日常的ではない。

日常的な異年齢交流が可能な環境として、ラーニングコモンズのような場所だったり、図書スペースがあると望ましい。

### 【山崎委員】

子どもたちは素直で元気。色んな物事への興味・関心が高い。少人数保育の長所として一人一人の良さを知っており、相互理解が育ちやすい。異年齢交流を通して、憧れの心を持ったり、お互いに優しくしたり、自然と成長している。

ただ、興味・関心を深める仲間が少ない点が課題であり、縦のつながりはもちろん、地域の人たちと関わる機会を通じて学びを広げていきたい。

小中学校は校舎・グラウンドが近いが、保育所からは距離がある。一緒になると、お兄ちゃん・お姉ちゃんの様子が日常的に分かり、憧れの気持ちが強くなる。また、教職員の皆さんとのつながりも強くなる。

### 【百々委員】

子どもたちの良いところは異論なし。縦のつながりはあるが、子どもの数が極めて少なく、特に中学校に上がる際には転出による減少もありうる。人口減少はやむを得ないところだが、例えば、山村留学など、外部からの受入れも含め、人口減少に向き合いながら良い教育環境を整える必要がある。

### 【土居委員】

子どもたちの良いところは異論なし。今のところ、保育園では大きな問題はないと感じるが、同性同級生が少なく、比較できる子どもがいるとなおよ。例えば、中芸地区全体で連携し、他の学校とスポーツをしたり、体験学習を一緒にするなど、交流があるとよいのではないか。

また、保護者の立場からは図書館があると子どもを見守ってもらったり、地域の人たちと交流したりできるので良いと思うが、予算が課題。

### 【稻毛委員】

子どもたちの良いところは皆さんがあつしやったとおり。少人数だからこそ、色々な体験ができているが、切磋琢磨できているかというと十分でない。合同部活動など、他の学校と一緒に活動できるとよいのではないか。

図書館については、田野町が最寄りのため、北川村にあると、保護者や地域の人たちとの交流拠点になる。

### 【井津(文)委員】

子どもたちは素直で、必ず挨拶してくれる。また、学年を超えてよく遊んでいる様子を見る。一方で、人数が少ないゆえ、活動の幅が狭く、何かできないか。

図書館は、田野町より広く、また、土日やっていると、子ども・高齢者双方が利用できる

## 【未定稿】

拠点・接点となるので検討してほしい。

### 【井津(信)委員】

最初はシャイだが、接するうちに人見知りしなくなる。

もっと積極的に村民と交流できるよう、地域と子どもが混ざり合う環境が必要であり、例えば、村民運動会を保小中合同でやるといった取組は有効ではないか。

### 【有光委員】

安芸市赤野では、赤野獅子舞を復活させ、地域コミュニティが再構築され、地域の人全員が子どもに関われるようになっているのだが、地域の人たちと子どもたちとの交流を通じて、子どもたちの成長が見られる。そうした地域の人たちとの交流が重要。

### 【長岡アドバイザー】

少人数学級の弱点を補うため、多様な挑戦や経験を得られる環境づくりが必要。

学校は、①学びの場、②保護者・地域の人たちとの交流の場、③地域・文化の核となる場として機能すべき。長い廊下に同じ教室が並んでいるのではなく、例えば、学校の中心に図書館があって、本を読んだり、地域の人たちと交流できるようにする等検討すべき。何より、子どもが「ワクワクする学校」「明日も行きたいと思える学校」を目指すべき。

### 【岩城アドバイザー】

保育所、小学校、中学校それぞれに魅力があるが、子どもたちがお互いに認め合うという文化が根付いていると感じる。もっと伸ばしていくためには、系統的な指導が必要。

異年齢での活動や地域での体験を通じて、人と関わる力や郷土愛が育つ。それぞれの活動が見える空間づくりが必要ではないか。

地域全体が学び場であるから、それらを活用して探究的な学びである北川学を展開・発展させていく。地域の人たちはもちろん、企業と関わりながら進めていく環境があると次につながる。

### 【野島アドバイザー】

子どもは素直で、地域の人たちに挨拶してくれるが、必ずしも子どもたちと地域の人たちとの接点は多くないように感じた。地域の人たちと運動会のようなものを一緒にやるものよい。また、ハンドクリームを売ったり、Tシャツを売ったり、そうした外との関わりを持つ体験学習は継続すべき。先生方が知らないこともあるから、先生たちも巻き込めるといい。もうちょっとそれぞれのつながりがあつてもよいのではないか。

単なる足し算ではなく、スペースは1.5でも、活動は3倍にできるような施設ができるといい。

以上を踏まえ、追加の意見・質疑応答があった。

### 【井津(文)委員】

学校は「学びの場」としての位置付けが当然必要と思う。その上で、今回の(自分の)グループでは地域代表の立場からどうしたらみんなが集い、使えるかを議論させていただいた。

それから、「保小中」に「幼」が含まれていないが、その点は検討しないのか。

### 【事務局】

村としては、これまで、みどり保育所・北川小学校・北川中学校の一体化を前提に検討してきた。幼稚園(又はこども園)については、今のところニーズをお伺いすることなく、今後要望に応じて検討すべき点と認識。

施設については、本日各属性ごとに意見を頂いたところ。本日頂いた意見をまとめ、次回以降また議論していきたい。

## 【未定稿】

	<p><b>(4)その他進捗報告</b> 【事務局】</p> <p>議事経過 12月20日(土)13時から村民向けにワークショップを開催予定。 子どもたち・保護者や、村民以外で北川村の学び舎に関心のある方へ広く参加を呼び掛け、全戸配布及び教育委員会ホームページで周知したい。 別途、子ども向けのワークショップも検討中。</p>
--	---

	<p><b>(5)次回の検討委員会について</b> 【事務局】</p> <p>議事経過 次回(第3回)は、12月15日(月)18時30分～北川村民会館大ホールで開催予定。 第4回は1月19日、第5回は3月4日で開催予定。なお、予備日(当初は3月23日の週)は調整困難だったため、3月18日又は19日で調整したく、不都合あれば次回までに連絡いただきたい。また、最終回(第6回)は4月13日の週に開催予定だが、詳細は年明けに決定したい。</p>
--	--

# 北川村の新しい学び舎の在り方

令和7年12月15日

第3回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会



# 【振り返り】子どもたちの良さ・課題

## 子どもたちの良さ

- ご自身が感じられる北川村の子どもたちの良いところはどんなところですか。

### 【主な意見】

- 素直、純朴。
- 挨拶を欠かさず礼儀正しい。
- 一人一人の良さを知っており、友達や仲間を尊重する心を持っている。また、スムーズに他者との関係性を築く力が育っている。
- 色んな物事に興味・関心が高く、一生懸命に取り組もうとしている。
- (異年齢交流を通じて) 上級生には憧れの気持ちを抱き、下級生には優しく接するなど、社会性を培っている。
- 北川村に誇りや愛着を持っている。

# 【振り返り】子どもたちの良さ・課題

## 課題

- 子どもたちの良いところを伸ばすためには、どんな課題があると思いますか。

### 【主な意見】

- ・興味・関心が一緒の子どもがいると、良さを伸ばしていくのではないか。保小中の交流を、行事にとどまらず、日常的にできる環境にしていくとよいのではないか。
- ・子どもの数が少なく、切磋琢磨できる環境が失われていないか。例えば、中芸地区内の他の学校との交流活動・部活動や体験学習の実施、山村留学制度の導入、地域の方々との合同運動会の開催などを考えてはどうか。
- ・(地域と子どもたちとの接点が薄く) 地域の方々がもっと関われるような取組や環境があるとよいのではないか。



保小中一体化を進めつつ、地域の方々や他地域の学校・子どもたちとの交流・関わり合いができるような環境づくりを目指してはどうか。

# 【振り返り】今後求められる環境

## 理想的な子育て・教育環境

- どんな子育て・教育環境があれば子どもたちを通わせたいですか。
- 「みんなが集い、学ぶ」ためには、どんな場所があるとよいですか。
- これらの環境を「みんなでつくる」ためには、どんな取組ができるとよいですか。

### 【主な意見】

- 日常的に子ども同士が混ざり合うラーニング・コモンズがあるとよいのではないか。
- 保育所と小中学校がお互いに見える／共用できる施設になるとよいのではないか。
- 保小中の系統的な指導や、探究的な学びを深める北川学の学習を開・発展させられるような環境があるとよいのではないか。
- 図書館があると、子どもたちや保護者、地域の方々（老若男女）が集い、学び・交流ができる場となるのではないか。
- （画一的・固定的な考えではなく）学校の中心に図書館を配置するなど、学びたくなる／通いたくなる空間づくりが大切ではないか。
- 子どもたちと、教職員、保護者、地域の方々、企業との連携・協働を生み出す環境が必要ではないか。

# 新しい学び舎の方向性

## デザインコンセプト

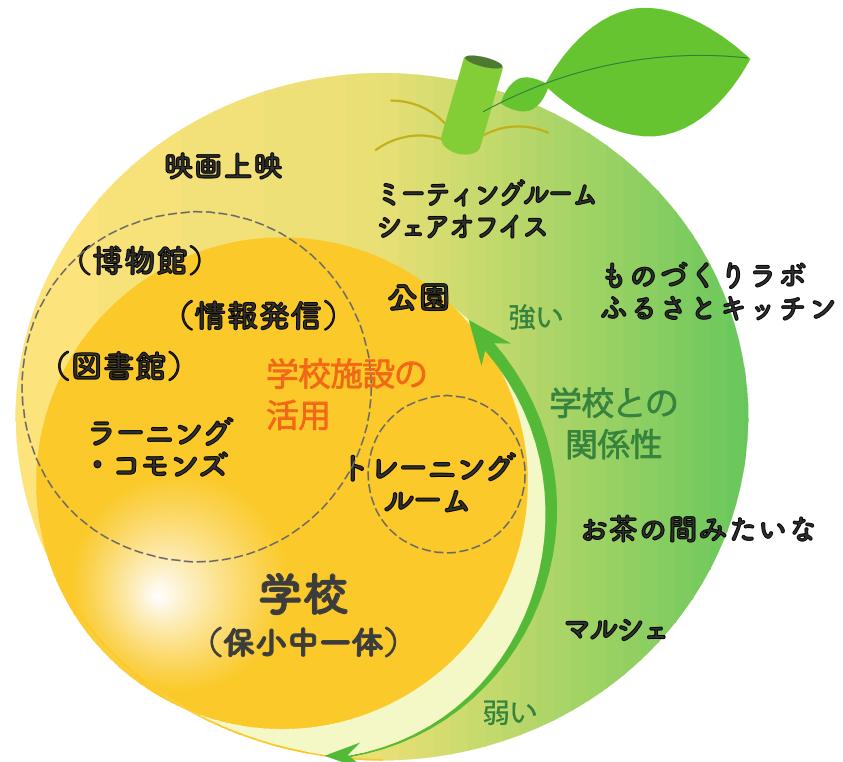
0歳～100歳 みんなが集い、学び、みんなでつくる『学びのひろば・ゆずのたね』

### 【込められた思い】

- 人口減少や少子化が進み、村の存続が課題となる村だからこそ、村に関わる様々な人が集い、学び、みんなが参画し、共創することで、村の未来を支えていく
- こうした活動は、村民や、村外の人を更に呼び、村の魅力につながっていく
- こうした魅力を礎に、村民や村外の子どもたちとの交流・学びが発展していく



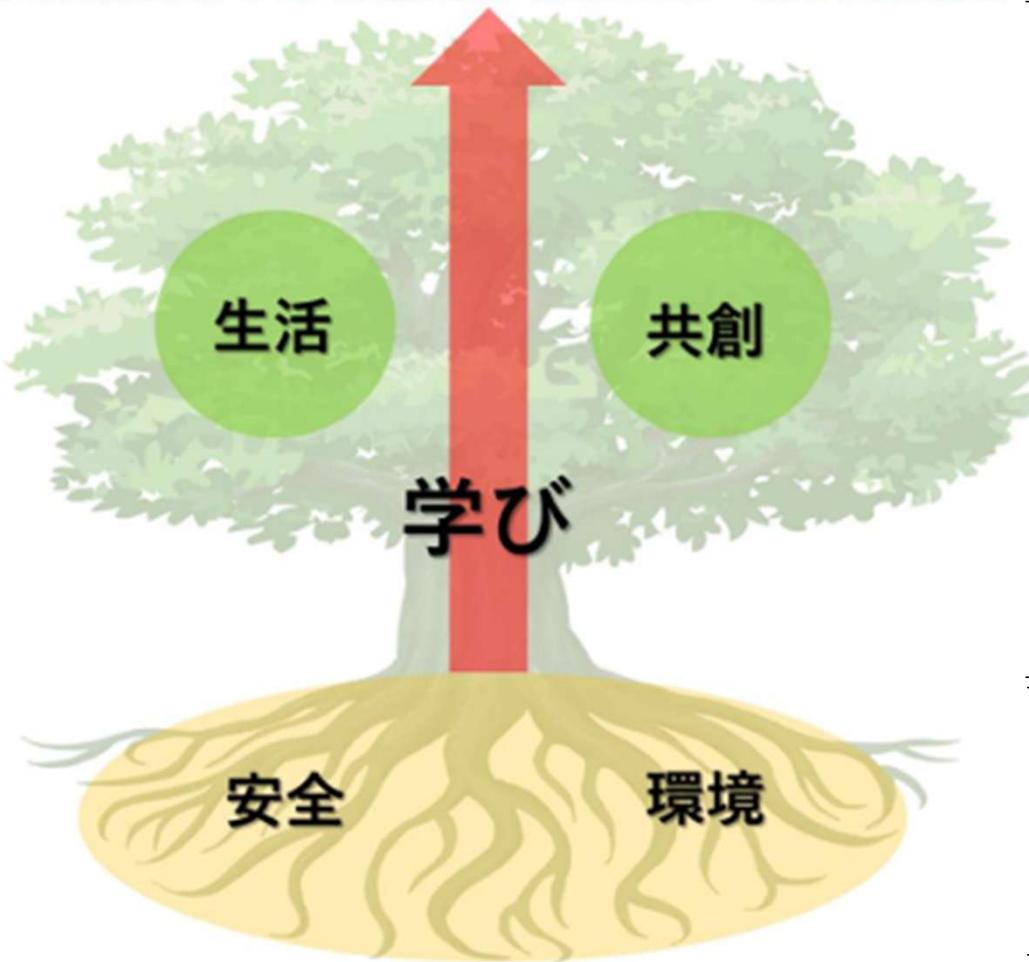
あらゆる人とつながる学びの場



# 新しい時代の学びを実現するには

## 新しい時代の学び舎のポイント

全ての子供たちの可能性を引き出す、  
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



(以下いずれも「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告）」（文部科学省）より)

【創意工夫により特色・魅力を発揮】

学び 》》 柔軟で創造的な学習空間を実現

生活 》》 健やかな学習・生活空間を実現

共創 》》 共に創造する共創空間を実現

【土台として着実に整備を推進】

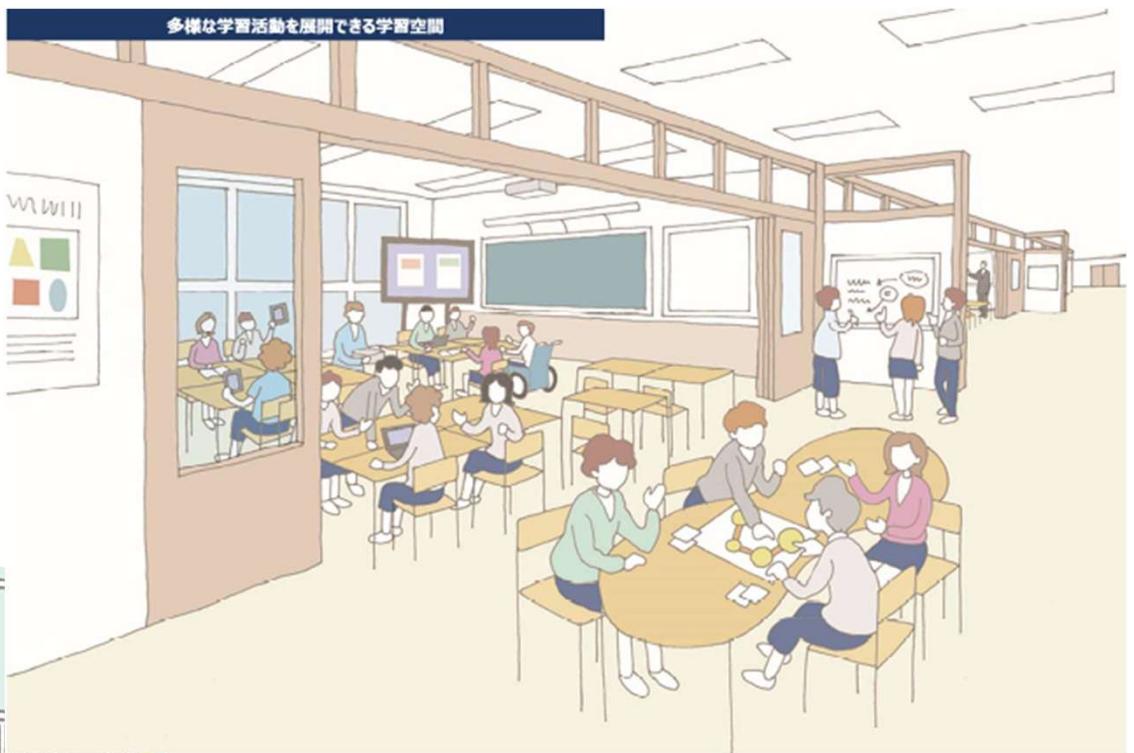
安全 》》 安全・安心な教育環境を実現

環境 》》 持続可能な教育環境を実現

# 空間イメージ

## 【学び】柔軟で創造的な学習空間

- ・ 様々な活動に応じて様々な利用が可能な家具などを配置するなど、豊かな学び・生活の場となる教室

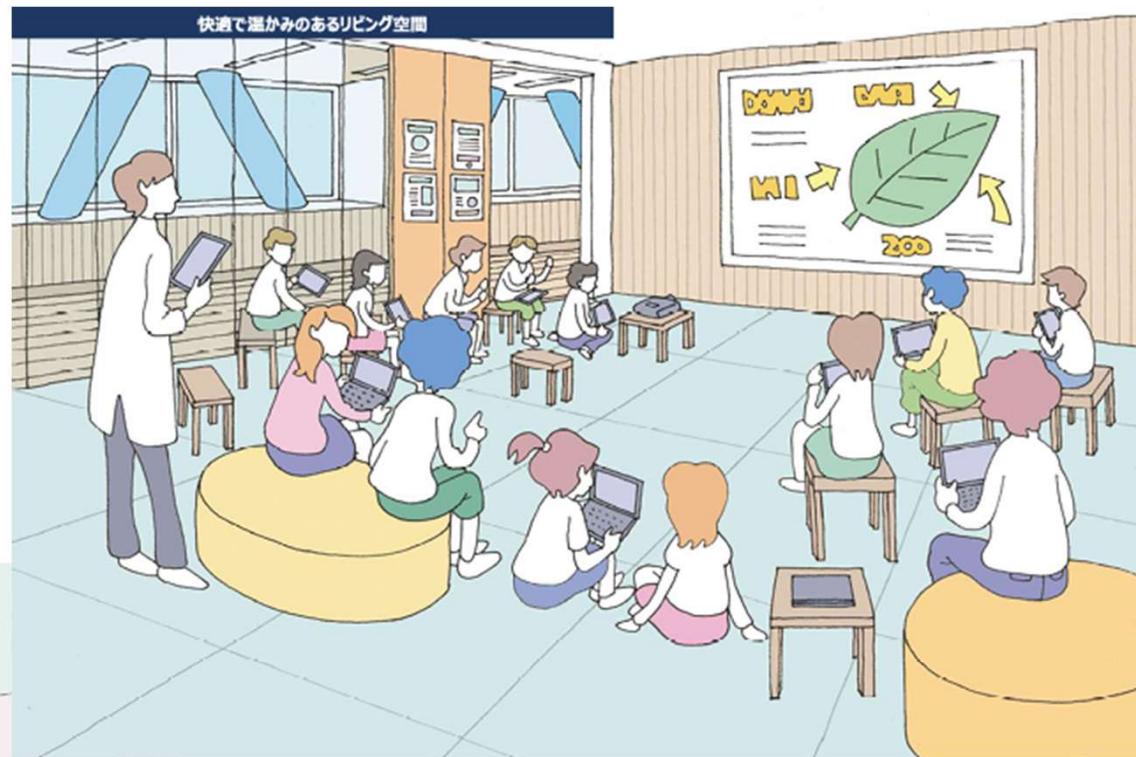


- ・ 図書室とコンピュータ教室を組み合わせ、自ら探究的な学びを深められるラーニング・コモンズ

# 空間イメージ

## 【生活】健やかな学習・生活空間

- 様々な活動に応じて様々な利用が可能な家具などを配置するなど、豊かな学び・生活の場となる教室

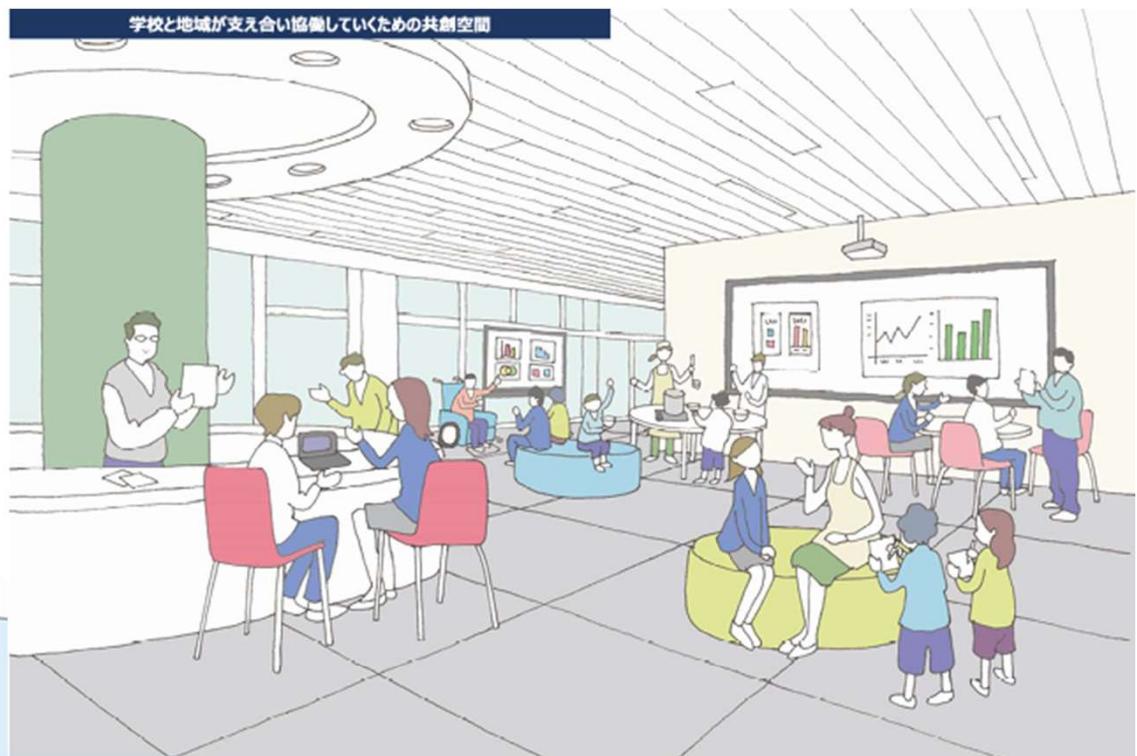


- 断熱性能・空調設備が設置された体育館
- 衛生管理・地場産物活用の促進に加え、防災拠点となる給食室

# 空間イメージ

## 【共創】共に創造する共創空間

- ・ 地域学を通じて子どもたち同士、地域の方々や企業等との交流・連携を促すための学習スペース



- ・ 図書館の複合化・共用化を図り、保小中や村民、他の地域の子ども等との交流・学び合いを創出するための交流拠点

# 空間イメージ

## 【安全】 安全・安心な教育環境

- ・ 防犯や地域連携スペースを備えた校舎
- ・ 子どもたちの安全／保護者の移動を鑑みた平屋の園舎



## 【環境】 持続可能な教育環境

- ・ 地域材の活用やZEB化などにより、快適であり、環境負荷に配慮した学び舎

→詳細は野島ADより

# 本日のテーマ

## 本日議論いただきたいこと

- 保育園から中学校までの子どもたちが日常的につながって遊び・学べるようになるためには、どんな園舎・校舎が必要でしょうか。
- 村の子どもと村民、他の地域の方々が集い、学び、一緒に活動できるようになるためには、どんな場所・機能が必要でしょうか。

上記の点について、各グループごとに話し合い、発表お願いします。